

学習ポイント 1

よさを見つけ、直す理由を伝え、もう一度書く

添削は、間違い探しではありません。目的に合う伝わり方を一緒に考える作業です。チェック欄の「自分」は書き手、「読み手」は友達など、文章を読む人が記入します。○は満たしている、△は一部できている、×は直す必要がある、という印です。気になる箇所に線を引き、理由をメモしましょう。一人で取り組む場合は、時間を置いて読み手の立場でも点検できます。

目標 内容・構成・表現を分け、問題の条件に沿って作文を点検する。／よい点と直す点を、本文の具体的な箇所と理由に結び付けて伝える。／助言を比較し、自分の意図を保ちながら必要な修正を選ぶ。

1 まず問いと条件を確かめる

文章の上手さより先に、求められた話題、立場、根拠、段落数、字数を確認します。条件は問題ごとに異なり、この教材のチェックも必要に応じて調整します。

例 二段落指定なら、改行して段落を分けているか確認する。

例 百六十～二百マス指定なら、文字だけでなく段落の空きマスも数える。

2 内容から表現へ見直す

最初に主張と根拠、次に構成、最後に表記を見ます。言い間違いだけを直しても、理由の不足や資料の読み違いは残ります。

例 優先：表の数値を誤って使った → 数値と結論を直す。

例 その後：文体の混在、送り仮名、句読点を整える。

学習ポイント 2

よさを見つけ、直す理由を伝え、もう一度書く

3 本文の箇所を挙げて伝える

「分かりにくい」だけで終わらず、どの文が、なぜ分かりにくいかを説明します。よかった点も具体的に伝え、残すべきよさが分かります。

例 よかった点：「紙も残す」という結論が、通信環境の違いとつながっている。

例 質問：「それ」は紙と端末のどちらを指しますか。

4 相手の考えを勝手に変えない

読み手と意見が違うだけでは、直す必要はありません。立場ではなく、根拠の正確さやつながり、相手への配慮を点検します。

例 賛成の文章を、自分が反対だからという理由で反対に直さない。

例 同じ立場のまま、想定例や実施条件を加える提案をする。

学習ポイント 3

よさを見つけ、直す理由を伝え、もう一度書く

5 助言は理由で選ぶ

すべての助言に従う必要はありません。目的や根拠に合うかを考え、採用するもの、保留するものと、その理由を整理します。

例 「みんな」と書く → 全員の確認がないので採用しない。

例 「例えば」を加える → 仮定の場面だと伝わるので採用する。

6 書き直した後も点検する

修正すると、段落のつながりやマス数も変わります。直した箇所だけでなく全文を読み、初めの主張と結論が一致するか確かめます。

例 理由を追加したら、同じ内容の重複がないか読む。

例 段落の先頭の一マスと、途中の段落末の空きマスも含めて数え直す。

原稿欄の使い方

字数条件は使用マス数で確認

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来的时候は、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

数え方の例 2段落で30マス

	朝	の	校	庭	を	歩	い	た	。											20
	空	気	が	澄	ん	で	い	た	。	30										

1段落目の残り10マスと、各段落の初めの空き1マスも数えます。最後の文の後の空きは数えません。

取り組み方と参考資料

全10問 | 基礎4問・標準3問・応用3問

学習ポイントを確認してから、問題の問1～7で部分練習をし、問8～10でまとめた作文に取り組みます。構成メモ → 本文 → 条件確認 → 書き直しの順に進めましょう。

解答解説の文章は一例です。経験や立場が異なっても、問いと条件に合い、理由や根拠が読み手に伝われば認められます。各問の確認基準は、この教材の学習用の目安です。全国共通の入試採点基準ではありません。

教材の対象は中学3年生です。基礎から高校入試を意識した短い作文まで段階的に練習します。時間配分や段落構成に、すべての作文に共通する唯一の正解はありません。

本文を書く原稿欄は1マス9mm、短い回答や構成メモの罫線は1行10mmです。原寸（100％）で印刷すると、この大きさに使えます。

すべての例文・設問・作文例・資料は、本教材のために作成したオリジナルです。表の数値や調査は架空であり、実在の学校や社会全体の傾向を示すものではありません。特定の入試問題や教科書本文は転載していません。

学習範囲の参考資料

文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編

第3学年「書くこと」（冊子120～123ページ）を学習目標の確認に使用。例文・設問・資料は転載していません。

資料確認日 2026年10月8日。資料名から文部科学省の資料を開けます。